

Comparison of students' encountered diseases and available diseases at clerkship sites by exploratory multivariate analysis: Are encountered diseases predictable?

武富, 貴久子

<https://hdl.handle.net/2324/1654709>

出版情報：九州大学, 2015, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）



(別紙様式2)

氏 名	武富 貴久子			
論 文 名	Comparison of students' encountered diseases and available diseases at clerkship sites by exploratory multivariate analysis: Are encountered diseases predictable?			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	北園 孝成
	副 査	九州大学	教授	馬場園 明
	副 査	九州大学	教授	萩原 明人

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

背景：臨床実習において医学生は臨床の状況で実際の患者とのやり取りを通じて臨床実践能力を習得することが期待されている。そのため学生が経験した疾患（Encountered diseases : EDs）をモニターし予測することは、学生に適正な経験を提供する上で重要である。しかしこの EDs と、実習先の医療機関で診療を受けている患者が持つ疾患、つまり学習資源として学生が経験可能な疾患（Available diseases : ADs）とを比較検討した報告は見当たらない。

目的：学習資源である ADs を、医療機関タイプ別にその分布（疾患構成割合）の特徴を明らかにし、さらに EDs と ADs の疾患分布の相違を検証する。

方法：多変量間の比較が可能なバイプロット分析を用い、観察可能な実習先の医療機関タイプ別に ADs を比較するため、政府公表の統計データを活用し、後ろ向き観察研究を行った。EDs は、九州大学病院での臨床実習期間に学生が記録した疾患をログブックから抽出し、タイプの異なる医療機関の ADs と比較した。

結果：医療機関タイプにより ADs の疾患分布は異なっていた。九州大学病院における EDs の疾患分布は、大学病院カテゴリの ADs の疾患分布と類似していた。

結論：臨床実習における EDs の疾患分布は、実習先である医療機関の ADs の疾患分布を分析することで、ある程度予測できる可能性を見出した。しかしその確立には更なる詳細な分析が必要である。バイプロット分析は、大量のデータが有する統計学的な類似性を視覚化し、解釈するのに有用である。

以上の成績はこの方面の研究に知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったがいずれについても適切な回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と判定した。